

令和7年度 2学期 始業式 式辞

みなさんおはようございます。皆さんは充実した夏休みをすごされましたか。合宿や研修、家族での旅行など普段を違った環境で過ごした人も多いと思います。この後、各種研修での経験を発表してもらいますが、どのような報告になるのかととっても楽しみにしています。

海外研修もあったので、海外で様々なことを体験したり気づいたりした人もいると思います。

みなさんは将来グローバルリーダーとして活躍されことを期待されていて、本校は国際理解教育を重視していますので、海外から来た学生や修学旅行などで交流する機会は多くあります。

海外の方と交流すると、自分がまるで日本代表のような、日本について語る機会が多くあるように思います。そのような際に、いかに日本について理解しているか、自国の文化を理解しているかという、いわば教養、リベラルアーツの部分が大切になってきます。「リベラルアーツ」は「実用的な目的から離れた純粋な教養」とも言われます。

みなさんは歴史や古典が入試科目に入っていて、とくに「古文とか漢文とか」こんなこと将来役にたつのか、と思った人も少なからずいるのではありませんか。

何が役に立つか立たないかという判断は現時点でしかできません。

変化の激しい社会を生きていくためにはどのように物事をとらえるのか、どのように自由に思考を巡らせることができるのか、といった人としての揺るがない「基盤」というか「基礎体力」が必要です。

古典などを学ぶことで得ることのできる普遍的で純粋な教養は、生きる上でのヒントや豊かさをもたらしてくれる、「基礎体力」をはぐくむものだとは私は考えています。知識もちろん必要ですが、その知識を活用し、知識と知識をつなげて豊かな発想で物事を作り上げていくことは、教養のある人間でなければできないことです。また、自国の文化を理解し、他の国の文化を尊重することは、グローバルリーダーとして求められる資質だと思います。

四條畷高校が皆さんに勉強だけを求めるのではなく、行事や部活動を重視するのも、スポーツや文化・芸術などを通じて様々な場面で教養を高め、生きる上での「基礎体力」ともいえる真の知力や教養を養ってほしいからです。「知識偏重」の「薄っぺらな人間」にはなってほしくないからです。

そして、ありがたいことに本校には教養を身に着ける、高めるための装置や資源がたくさんあります。各種の行事や海外研修、探究チャレンジなどの授業もそうです。蔵書数の多い、いつも開いている図書館もそうです。教養や文化を重んじ、豊かな感性を高め、素敵な大人になってください。

文化といえば本校の本館は昭和12年に建設された築88年目の登録文化財です。優れたモダニズム建築で、建築関係者の中には見学したい人も多くいるのです。

ちょうど今は本館の外壁の工事をしていて、皆さんにはご迷惑をかけています。文化財、本校の校舎の美観を守るためには、必要な工事です。不自由をかけますが、ご辛抱ください。

それでは体調管理や熱中症にはくれぐれも気を付けて、2学期をスタートさせましょう。以上で私からの式辞とします。